

修路ひのきしん

百瀬竹三郎

自昭和八年
至昭和十四年
間

「ひのきしん」と云ふと何の事だらうと目を瞠る人もあらうし「はゝあ」と肯かれる人もあるであらう。「ひのきしん」とは天理教教理の核心をなすもので、漢字を當つれば「日の寄進」となり報恩感謝の念を實行に移すことであつて主として勞務奉仕をなすものである。毎年若葉薫る季節

(五月十八日)に全國一齊に行はれるこの奉仕は地方の事情に應じ或は神苑の清掃に或は官公署、學校等の庭の掃除に或は汚所の淨化に或は土木作業に、各々其の地方色はあるが、わが埼玉縣の兒玉郡兒玉町天理教埼玉聯盟玉郡支會に於ては、昭和八年以來一貫して修路の奉仕が續けられてゐる。既往に於ける同支會の修路奉仕の活動狀況は左の通りである。

一、修路延長 國道及府縣道四千四百米
二、作業種類 側溝凌上路面不陸直し、路面穴埋、法面雜草刈取

三、出場人員 九百三十四人

四、作業狀況 背に天理教と染め出した紺の香勾ふ法被姿に軽い足仕度をした支會長を始め老若男女の信徒は土木課出張所員の指導によつて作業を行ふのである。

神に仕へる心を以て感謝に満ちて振ふ鍬に、鎌に、シヤベルに、雜草は刈取られ側溝は清掃され路面の不陸は直されて行く。そして大自然にはぐくまれて修路作

業に奉仕する信徒の心は感激に燃て、その面上は喜びに輝き早朝より薄暮まで作業は續行されるのである。

宗教的信念に結合する奉仕者の熱心なる作業振りは例々として心を打つものがある。

今や國を擧げての總力戰に人的資源の不足は土木事業の遂行に多大の困難を感じつゝある際、たとへ一年に一日と雖も土木作業の勞務奉仕をせらるゝ事は誠に喜ばしい事であるのみならず「ひのきしん」は勤勞奉仕の先驅をなしたものであつて直接間接に與ふる社會人への影響は大きい。

埼玉縣に於ては同支會連年の奉仕に對し土木課長より表彰の挨拶狀を發して謝意を表してゐる。

昭和十四年五月十八日の『ひのきしん』

に對する謝狀

拜啓初夏の候愈々御清榮賀上候

陳者貴會には恒例により本年度「ひのきしん」の御催しとして特に交通頻繁を極むる府縣道本庄兒玉線道路の修理清掃を御選定相成早朝より薄暮に至る迄熱誠溢るゝ作

業を行はせられ爲に道路は其の全線に亘り眞に整然と相成交通運輸に多大の利便を御與へ被下候のみならず會員各位の眞心込めて打振ふ一鍬一鎌は交通者に對し道路に關する公共心の涵養道路愛護思想の普及並集團勤勞觀念の浸徹に甚大なる貢獻を賜はり又右は自ら銃後の守を強固に爲すの基とも相成洵に難有感激致居候今今後共該御催しの續行方御配意相煩度右不致御禮の御挨拶申述度如此に御座候 敬具

昭和十四年六月十日

埼玉縣土木課長

兒玉郡兒玉町武陽支教會

天理教埼玉聯盟兒玉支會會長殿

思ふに一切の偉大なるものは悲しみとのうちから生れる「長き夜を泣き明したるものにあらずんば共に人生を語るに足らず」とカールライルの言つた如く深刻な苦惱の體驗者でなければ眞に人類愛の極致に達し得ない。

(以下略)